

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

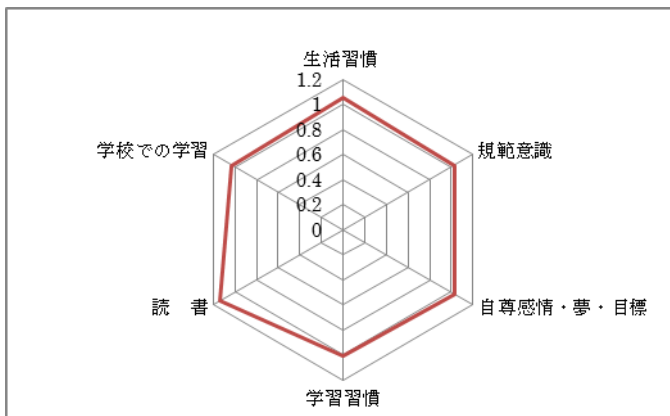
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	文脈の中における語句の意味を理解することや、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することができる。互いの発言を検討し自分の考えを広げることに課題がある。	上回っている
国語B	文章から目標に応じた必要な情報を読み取ることができる。根拠を明確にし自分の考えを具体的に書くことや読み取った情報を適切に活用することに課題がある。	上回っている
数学A	式の計算や空間における直線の位置関係、比例の関係については、高い正答率である。関数、資料の活用の領域で課題がみられ、再度定着を図る必要がある。	上回っている
数学B	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、証明することに課題がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・生活習慣では、ゲーム等の接触時間が1時間以内50%、テレビ等の視聴時間が1時間以内25%と、全国平均と比較してよい傾向にある。
- ・将来の夢や希望をもっている生徒は全国を上回っている。夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。
- ・全体としては家庭学習を積極的に行う傾向にあるが、ほとんど取組めていないと回答した割合も高く、継続的に家庭学習に取り組む仕組みを強化する必要がある。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・発表する機会が与えられていると答えている生徒は、全国と比較しても高く、授業の改善が見られる。
- ・めあて、まとめの明示が90%と改善された。今後は、振り返りの時間を効果的に取り入れたい。
- ・授業の中に、主体的に考え、話し合い、書くというサイクルを定着させる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「自主学习」として、特に漢字、計算、英単語、英文の練習を継続して実践させる。
- ・学習方法をまとめた「学習の手引き」や「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。
- ・週末課題プリントを全学年で取り組み、家庭学習習慣や基礎学力の向上を図る。